

第1回 9/28(土)

講演テーマ

「交通の要衝
八木の歴史」



講師 谷山 正道
(元天理大学教授)

講師 岡 絵理子
(関西大学教授)



講演テーマ「八木の町並み」

第2回 10/6(日)

時間 / 開始 午後1時30分 終了 午後4時

内容 / 歴史的町並み「八木札の辻界限」の講演会(約1時間)とまち歩き(約1時間30分)

場所 / 八木札の辻交流館

定員 / 各回 50名(先着順、参加費無料)

申込方法 / 住所、氏名、連絡方法(電話)、参加希望日(両日可)等を下記までメールしてください。

主催 / NPO法人 八木まちづくりネットワーク

問い合わせ先 米村博昭 080-2530-7828 imaiynet2@zg8.so-net.ne.jp



八木の概要

橿原市八木の町は古代からの幹線道路である「横大路」と「下ツ道」の交差点を中心に発展し、中世には町を形成していたと云われています。近世になって高札の架かる場所となり「札の辻」と呼ばれ、商業の中心となりました。

横大路は「札の辻」を通る東西の道で、日本書紀にもあるように大阪の難波津から竹内峠を越え、藤原京につながる官道で、当時は30～40m程度の幅の、いわば現代の国道1号線とでもいえる古道です。その後も大阪から伊勢へ向かう街道のひとつとして賑わいました。

下ツ道は大和盆地の中央を南北に貫く三本の古道のひとつで、東側から上ツ道、中ツ道がありました。下ツ道の北端は平城京の朱雀大路で、平城京の区画の基本となった条坊制はこの道を基準につくられました。また、この道を行けば高取を經由し、更にその先吉野や紀伊国(和歌山)へ向かうこともできる主要幹線でした。現在も、その痕跡ははっきり残っていて、近年復元された朱雀門からまっすぐこの「札の辻」を経て、高取に至る道を地図で見ることができます。

また、「札の辻」周辺は、今も、江戸時代からの歴史的町並みが生活の場として生き続けていると共に、灯籠・井戸・旅籠の建物などの旧街道の面影をとどめる環境も残されています。



お申し込みはFAXでも受け付けております。

FAX申し込み用紙

FAX 0744-25-6250

お申し込みはFAXでも受け付けております。この用紙に記入の上、送信してください。定員に達次第、締め切らせていただきます。この個人情報に関して他の目的で使用することはございません。

参加者のお名前 (複数の場合は連名で)	参加人数	人
ご住所		
連絡先 お電話		
希望の回(いずれかまたは両方に○)	第1回 9月28日(土)	第2回 10月6日(日)